

平成 26 年度社会科の授業改善のための方針

1 昨年度の成果と課題（成果☆、課題●）

☆総合的な学習の時間で、稲作体験を行うなどの活動を行ってきたので、食料生産などの学習に対して関心意欲が高い。
☆国語科とも関連させて新聞やニュースに目を向ける活動を行ってきたことにより、世の中の出来事に対する関心が高まった。

☆3、4年生では地域社会で調べたことやを相手に分かるように表現する意欲が高まった。（地図・新聞など）

- 社会科で学習したことを実生活に生かしていくために、身近な事からや新聞などの話題と関連づけていく必要がある。
- 社会科で学習したことを地域の歴史などと関連づけ、身近なこととして関心をもたせるようにする必要がある。
- 社会的な思考力を身につけさせるために、討論会やレポートにおいて資料からわかる事実と区別して自分なりの考えを発信し、互いの考えを話し合う活動を多く取り入れる。
- 歴史の学習において、関心・意欲に個人差があるので、資料集やNHK教育テレビの歴史人物番組など、内容や方法を取捨選択して学習を進められるようにする必要がある。

2 今年度の児童の実態

児童・生徒の学力向上を図るための調査（5年）の結果

- ・資料を活用して問題文を解くのが苦手である。
- ・都道府県の名称と位置が一致しておらず、社会的事象についての知識の定着が十分でない。
- ・2つの表やグラフを見て関連付けて事象を考えるのが苦手である。

（3年～6年の児童の実態）

- ① 全体的に社会科に対する意欲は高い。
- ② 資料を集めたり、調べ学習をしたりするのが好きで、意欲的に活動をしている。
- ③ 調べた事をレポート等にまとめることへの関心は高いが、資料や映像から必要な情報を読み取るのが苦手。資料を丸写しにしてしまう児童がいる。
- ④ 体験的な活動に積極的に取り組むことができる。
- ⑤ 思考力はついてきているが、社会に関する知識量は少ない。

3 今年度の方策

①授業中の指導

- ・意欲関心を高める導入・展開の工夫。
- ・体験的活動や実物にふれる活動で、意欲関心を高める。
- ・資料の読み取り方の指導を繰り返し行う。
- ・調べたことに対して、自分なりの意見を持たせる学習展開の工夫。討論会やディベート、レポートや新聞づくりなどの工夫。
- ・多様な表現方法を体験させ、活用できるように指導する。
- ・地域教材の活用、新聞記事と比べるなどして実生活との関連をはかる。
- ・学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、資料の収集・活用・整理などを行う。
- ・ICTサポーターの協力を得てICTを活用して授業を行っている。
- ・児童による振り返り・自己評価を行う。

②全校での指導

- ・わからないことを調べる習慣を身につけさせる。
- ・資料の読み取りの能力を高めるために、算数のグラフや数値の読み取り、国語の文章の読み取りをしっかりと定着させる。
- ・文章を書く力を日記、作文、新聞作りなどを通してさらに身につけさせる。
- ・新聞を読んだり、ニュースを見たりすることをすすめ、社会的な出来事に関心をもたせる。
- ・外国語活動などを通して、世界の国々の自然や文化に関心をもたせる。

4 学年ごとの重点目標

学年	重点目標
3年	グラフや地図などを活用する場面を増やし、読み取りに慣れさせる。
4年	教科書の他に、図書資料集やNHK教育テレビの番組などの視聴を通して、社会的な内容や方法を取捨選択していく力をつけていく。
5年	身近な事からや新聞などの話題と関連づけていく力をつける。
6年	それぞれの人物像や歴史上の事象が互いに関連しあって現在に至っていることに気づかせ、興味関心をもたせる。